中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第12集

横尾地区遺跡群 I

―― 県営ほ場整備事業横尾地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 ――

1994.3

中之条町教育委員会

序

中之条町は、群馬県の西北部に位置しており、盆地、河岸段丘、丘陵地、山間部と地形の変化に富んだ自然豊かな環境にあり、また、国指定の重要文化財である日向見薬師堂や旧富沢家住宅をはじめとして、県指定、町指定の文化財や史跡に恵まれた町です。

近年、中之条町では土地改良事業などの開発にともなう埋蔵文化財の緊急発掘調査がさかんに行なわれております。今回は横尾地区のほ場整備事業にともない、道路および水路部分の発掘調査を実施しました。

当地はすでに数多くの遺跡の存在が知られておりますが、今回調査を行いました七日市遺跡では、古墳時代から平安時代の住居跡に加えて古墳時代に墳火した榛名山二ツ岳の火山灰によって埋め尽くされた水田址も見つかっており、大きな成果をあげることができました。本書はその成果の概要を報告するものですが、中之条町の古代史を解明する上で欠くことの出来ない資料となることと思われます。

最後になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたりご指導、ご協力をいただきました関係各位に対して深く感謝申し上げます。

平成6年3月31日

中之条町教育委員会
教育長　　中沢恒夫

例　　言

1　本書は、県営ほ場整備事業横尾地区に伴い、中之条町教育委員会が平成4年度に実施した、七日市遺跡A区の発掘調査概要報告書である。

2　本遺跡は、群馬県吾妻郡中之条町大字横尾七日市に所在する。

3　発掘調査は平成4年4月10日から平成4年12月28日まで行い、遺物整理は平成4年度および平成5年度に、報告書作成は平成5年度に行った。

4　発掘調査は、中之条町教育委員会が群馬県渋川土地改良事務所の委託を受けて実施した。

5　発掘調査は、渋川土地改良事務所からの委託金、国宝重要文化財等保存整備費国庫補助金、群馬県文化財保存事業費補助金により実施した。

6　調査組織は以下のとおりである。

教育長　　一場秀司

社会教育課長　植木正勝

社会教育係長　水出隆夫　　学芸員　福田義治

主　事　須崎幸夫（調査担当）

7　本書の執筆および編集は須崎幸夫が行った。

8　遺構および遺物の写真撮影は須崎幸夫が行い、遺構図のトレースは社会教育係技師篠原充が行った。

9　本調査における記録・出土遺物については、中之条町教育委員会において保管している。

10　調査ならびに本書の編集に際し、下記の方々にご指導ご協力をいただいた。（敬称略）

群馬県教育委員会、渋川土地改良事務所、古環境研究所、株式会社測研、佐藤明人、早田　勉、高柳正春

11　発掘調査作業員（敬称略）

青柳七郎　小渕幸子　金井フキエ　斉藤君代　関　文枝　冨沢けさよ　冨沢りき　生須　博　湯本重太郎　吉田むつ

凡　　例

1　遺構実測図中の断面基準線は標高で表し、方位記号は座標北を示す。

2　遺構実測図の縮尺は次のとおりである。

全体図　1／600　　住居跡　1／60　　水田址　1／120

3　遺構・遺物写真の縮尺は統一していない。

目　　次

序　文
例　言
凡　例

Ⅰ　調査にいたる経過……1
Ⅱ　遺跡の位置及び周辺の遺跡……1
Ⅲ　調査の方法と経過……1
Ⅳ　基本層序……3
Ⅴ　検出された遺構と遺物……5
Ⅵ　まとめ……32

I　調査にいたる経過

県営ほ場整備事業横尾地区は、中之条町の東部、名久田川の右岸に位置しており、約154haの面積を占めている。この地区には、奥山原遺跡、長久保遺跡などの周知の遺跡が多数存在しているほか、平成2年度に行なった本地区の分布調査により、埋蔵文化財の包蔵地が広範囲に及んでいることが明らかになった。このため、渋川土地改良事務所及び町農林課土地改良係と協議を行った結果、道水路部分ならびに遺構が破壊される切土部分について埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることとなった。

II　遺跡の位置及び周辺の遺跡

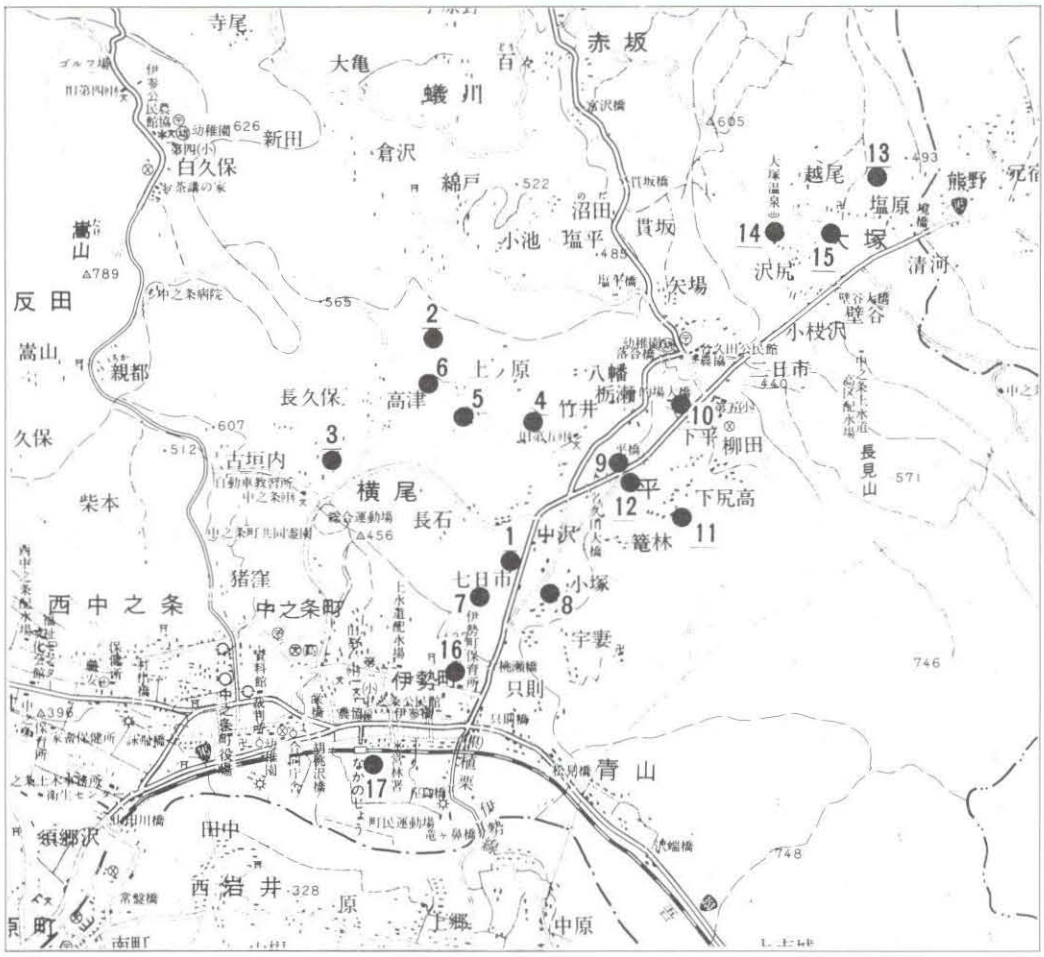
中之条町は群馬県の西部、吾妻郡の北東部に位置する。中央部を四万川が、東部を名久田川が南流し、南部を流れる吾妻川に注ぐ。これらの河川の合流点付近には中之条盆地と呼ばれる山間盆地が発達している。また、上記河川の流域に数段の河岸段丘が発達し、吾妻川流域の河岸段丘上に中之条町、吾妻町の市街地が形成され、他の河川の河岸段丘上にも平担面を中心に集落や耕地が営まれている。

七日市遺跡は中之条町大字横尾1579－1番地外に所在し、市街地より北東約1.5km、名久田川右岸の河岸段丘上で標高360m前後の平担地に位置している。今回調査を実施したA区は、国道145号線の西側に位置し、南には桃瀬川が東流する。調査地の現況は水田となっている。

次に周辺に存在する遺跡について概観する。まず横尾地区遺跡群内には、縄文時代の奥山原遺跡、古墳時代の集落跡とみられている長久保遺跡、名久田中学校遺跡がある。この他にも同じく古墳時代の千沢遺跡、高津遺跡、桃瀬遺跡、小塚遺跡が知られる。なお小塚遺跡には、町史跡の小塚古墳がある。また名久田川対岸の平地区では、町史跡の樋塚古墳をはじめとする平古墳群のほか、昭和61年度に調査された下平遺跡と昭和63年度調査の下尻高遺跡・菅田遺跡が、名久田川北岸の大塚地区では縄文時代の諏訪原遺跡のほか、昭和59・60年度に調査された五十嵐遺跡と宿割遺跡、市街地周辺では昭和54年度調査の天台瓦窯遺跡、中之条駅前および駅南一帯の天神遺跡等があげられる。

III　調査の方法と経過

本調査に先立ち、平成4年2月10日から平成4年3月31日にかけて、道路及び水路の新設予定地について、遺構の有無ならびに分布状況の把握を目的とした確認調査をトレンチ法を用いて行った。本調査はこの確認調査に基づき、遺構が確認されたトレンチを道水路幅まで拡張して



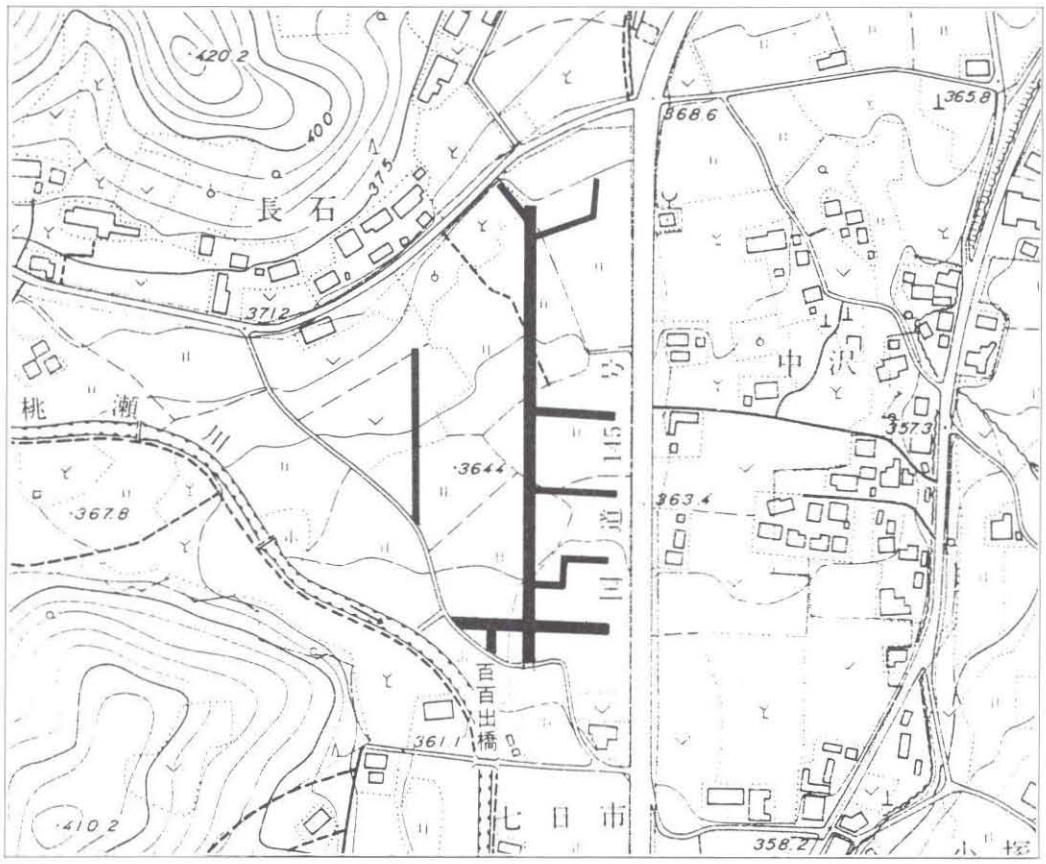
第1図　遺跡の立地と周辺の遺跡（1/50，000）

1 七日市遺跡　2 奥山原遺跡　3 長久保遺跡　4 名久田中学校遺跡　5 千沢遺跡　6 高津遺跡
7 桃瀬遺跡　8 小塚遺跡　9 樋塚古墳　10下平遺跡　11下尻高遺跡　12菅田遺跡
13諏訪原遺跡　14五十嵐遺跡　15宿割遺跡　16天台瓦窯遺跡　17天神遺跡

実施した。

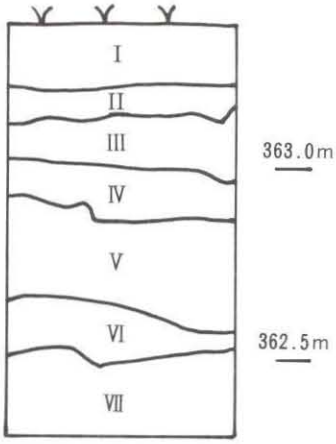
重機による表土剝ぎなど本格的な調査は平成4年5月から開始し、当初は調査期間を8月末日までと予定していた。しかし、調査実施中に工事計画が若干変更となり、さらに新設の道水路及び切土部分が追加されることになったため、調査期間を12月28日まで延長して引き続き調査を実施した。

なお、グリッドについては国家座標を用いて5m間隔で設定し、表記については座標値の下3ケタをそのまま使用した（例　345－585グリッドは、X＝66345・Y＝－86585を示す）。



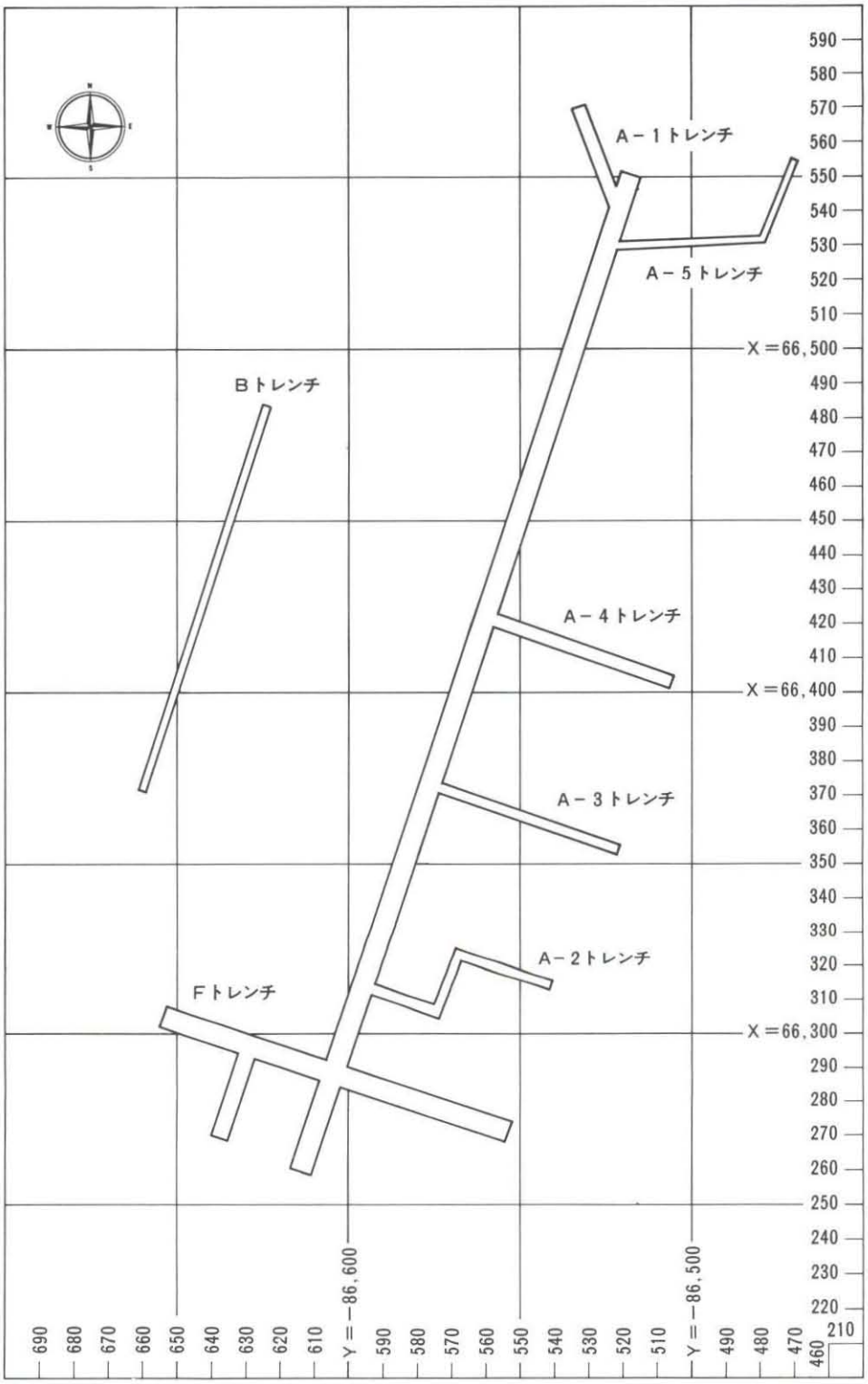
第２図　七日市遺跡Ａ区調査区設定図（１/５，０００）

Ⅳ　基本層序

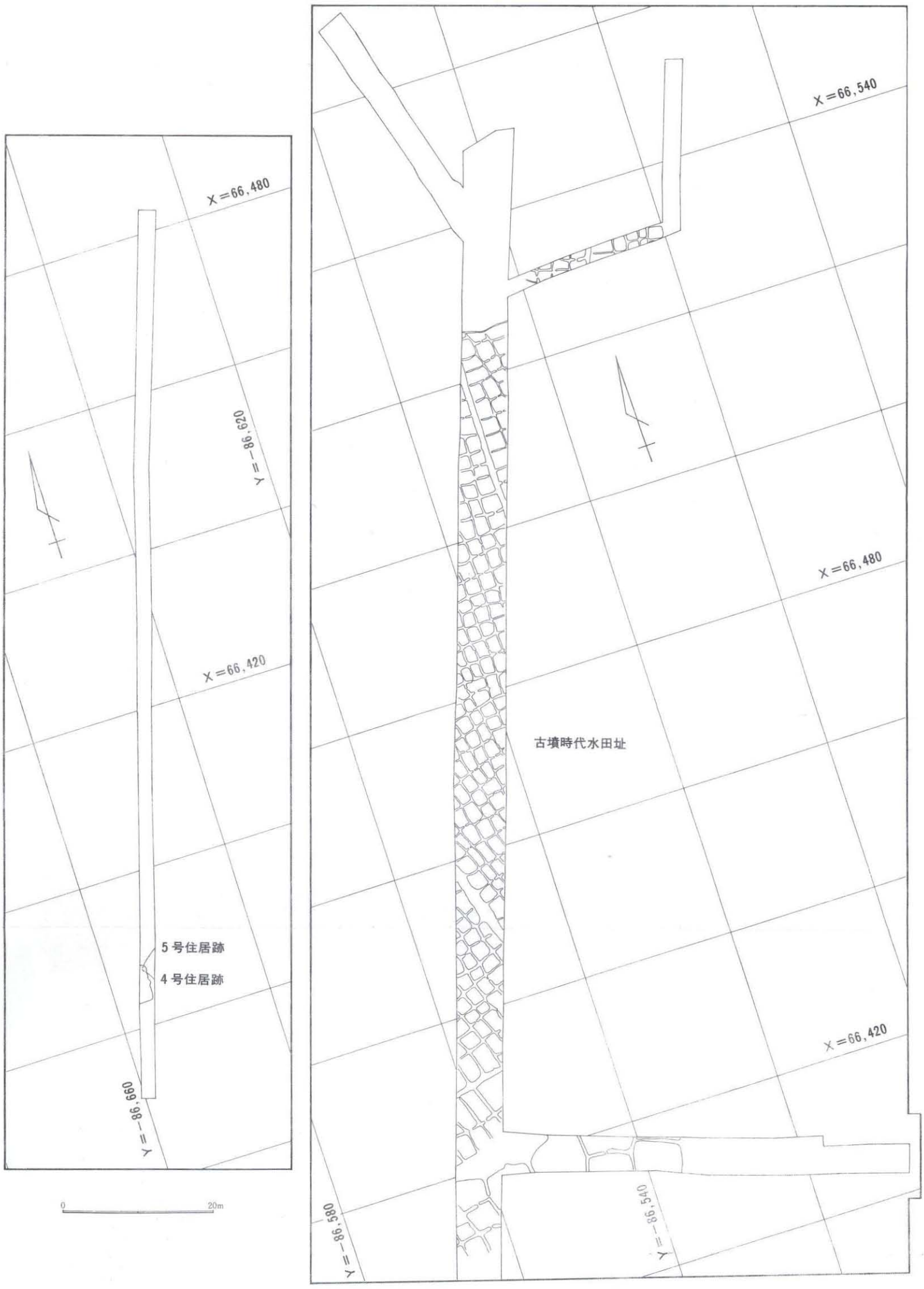


Ⅰ	耕作土	浅間Ｂ軽石を少量含む、灰色を呈する
Ⅱ	黒褐色土	浅間Ｂ軽石を多く含む
Ⅲ	暗褐色土	ＦＡブロック（小）・（中）を少量含む
Ⅳ	ＦＡ層	黄色を呈する
Ⅴ	黒色土	パミスを微量含む
Ⅵ	暗茶褐色土	ローム暫移層
Ⅶ	ローム層	

第３図　土層堆積図


A－1トレンチ
A－5トレンチ
Bトレンチ
A－4トレンチ
A－3トレンチ
A－2トレンチ
Fトレンチ
X＝66,500
X＝66,400
X＝66,300
Y＝－86,600
Y＝－86,500
590
580
570
560
550
540
530
520
510
490
480
470
460
450
440
430
420
410
390
380
370
360
350
340
330
320
310
290
280
270
260
250
240
230
220
210
690
680
670
660
650
640
630
620
610
590
580
570
560
550
540
530
520
510
490
480
470
460

第4図　グリッド設定図



第5図　七日市遺跡A区全体図1（1／600）

第６図　七日市遺跡Ａ区全体図2（１／６００）

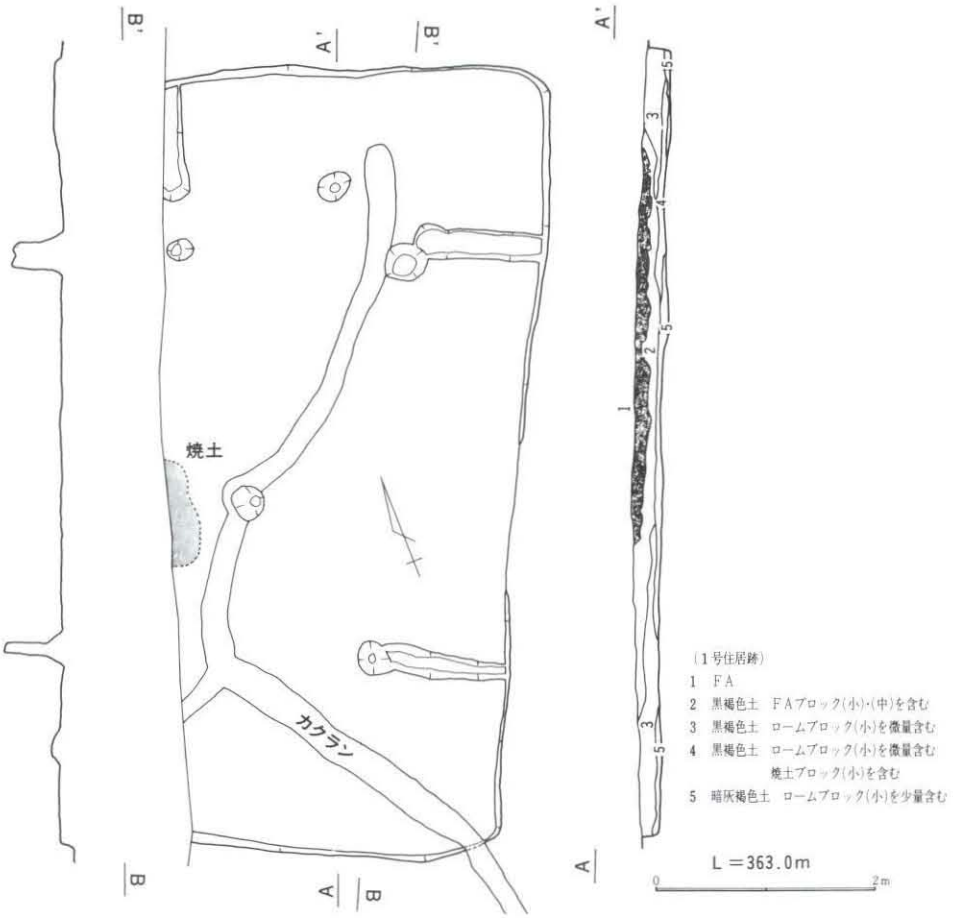
Ⅴ　検出された遺構と遺物

1号住居跡

３４５－５８５グリッドに位置する。調査トレンチの西側に接しており、全体の１／２の調査である。東壁は試掘トレンチによりほとんど削平されている。規模は南北間で7.22ｍ、平面形は方形を呈するものと推定される。

床面は、ローム層まで掘り込まれており、平担でかたくしまる。壁は残存する南北壁でほぼ垂直に立ち上り、壁高は最大で20cmである。柱穴は主柱穴が２本確認された。また、この主柱穴から東壁に伸びる間仕切り溝が確認された。貯蔵穴は、北壁に接して確認されたピットが相当すると考えられるが、規模、形状とも不明である。

遺物は土師器片が多く出土したほか、管玉１点、滑石製模造品５点などが出土している。



第７図　１号住居跡実測図

1号住居跡出土遺物

1号住居跡遺物出土状況

1号住居跡全景

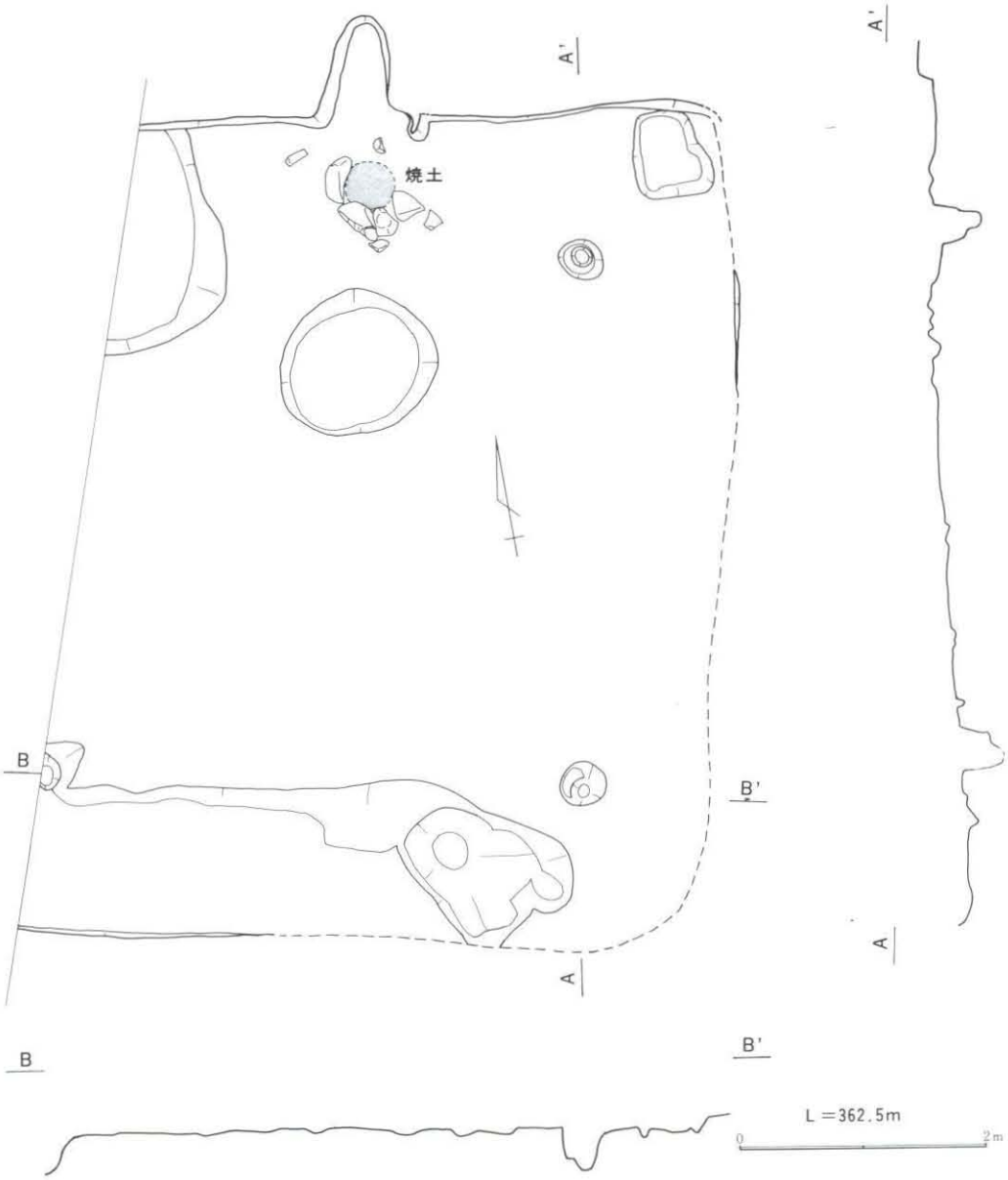
2号住居跡

３３０－５９０グリッドに位置する。調査トレンチの西側に接しており、全体の2／3の調査である。規模は南北間で6.85m、平面形は方形を呈するものと推定される。

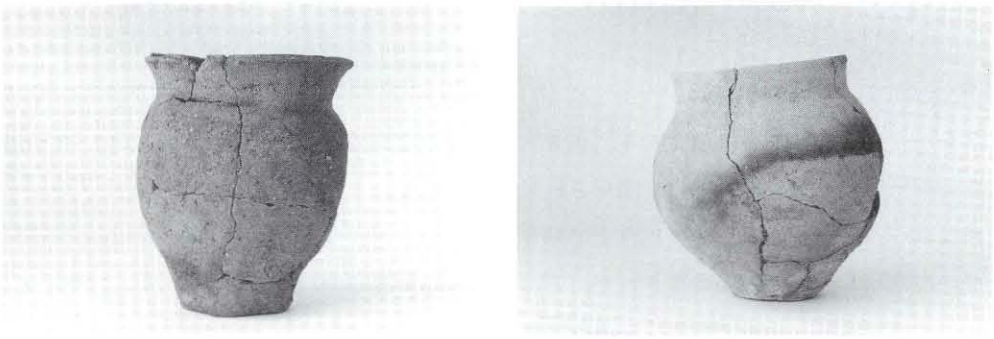
ローム上層まで掘り込んで床としているが、北東コーナーおよび南壁付近で貼り床を施している。南東コーナー付近は広い範囲にわたって攪乱を受けており、残存壁高は最大で15cmであるカマドは北壁に設置されている。両袖ともほとんど残らず、わずかに右袖の一部が残存する程度である。また、カマド前面に用材と考えられる石材が残存している。掘り方で主柱穴が3本確認されたほか、北東コーナーで貯蔵穴が確認された。

遺物はカマド周辺からほぼ完形の坏4点のほか、甕などが出土している。

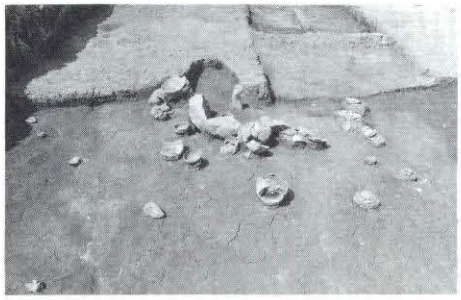
2号住居跡出土遺物



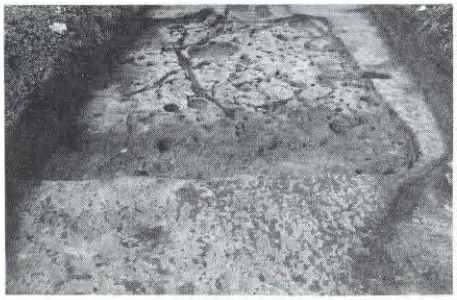
第８図　２号住居跡実測図



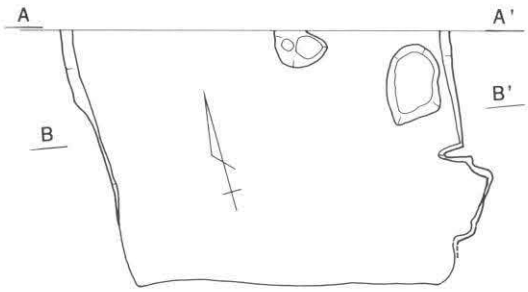
２号住居跡出土遺物



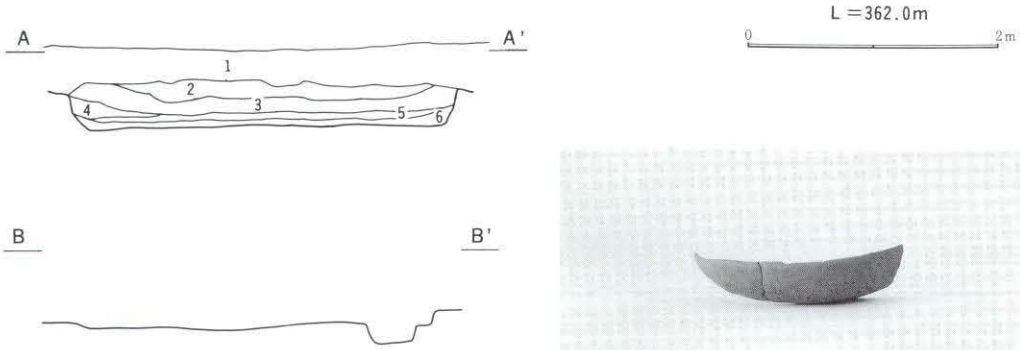
2号住居跡遺物出土状況



2号住居跡全景



（3号住居跡）
1　耕作土
2　暗褐色土　FAブロック(小)を少量含む
2　暗褐色土　FAブロック(小)を含む
4　暗褐色土　FAブロック(小)をやや多く含む
5　黒灰褐色土　FAブロック(小)を少量含む、カーボンブロックを微量含む
6　灰褐色土　FAブロック(小)を少量含む、焼土ブロックを微量含む



第9図　3号住居跡実測図

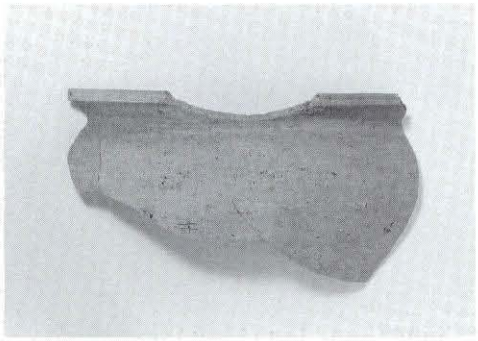
3号住居跡出土遺物

3号住居跡

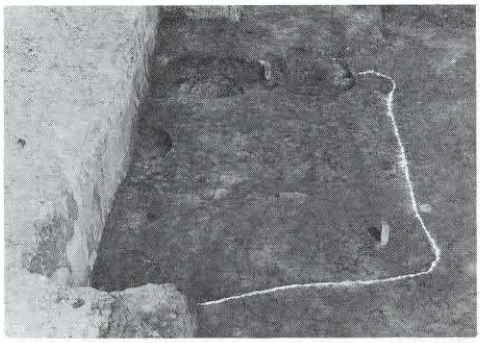
２７５－５６０グリッドに位置する。調査トレンチの北側に接しており、全体の２／３の調査である。南壁は試掘トレンチにより削平されている。規模は東西で3.09ｍを測る。

床面はロームブロックを含む黒褐色土で貼り床としている。壁高は最大で28cmである。カマドは東壁の南東コーナー付近に設置されている。遺存状態は悪く、左袖が一部残存する程度である。柱穴は１本確認されたのみである。貯蔵穴はカマド左脇で確認された。

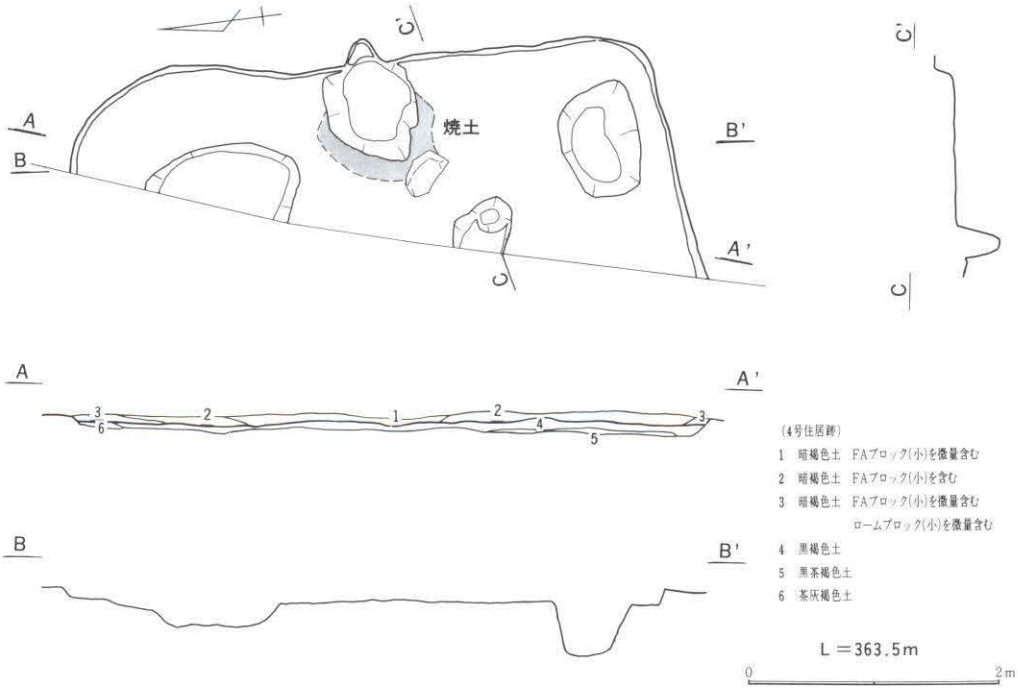
遺物は少なく、貯蔵穴付近に偏って出土している。



3号住居跡出土遺物



3号住居跡全景



第10図　4号住居跡実測図

4号住居跡

385－655グリッドに位置する。調査トレンチの西側に接しており、全体の1／3程度の調査である。北東コーナーが5号住居跡と重復し、本住居跡が新しい。規模は南北で4.8mを測る。

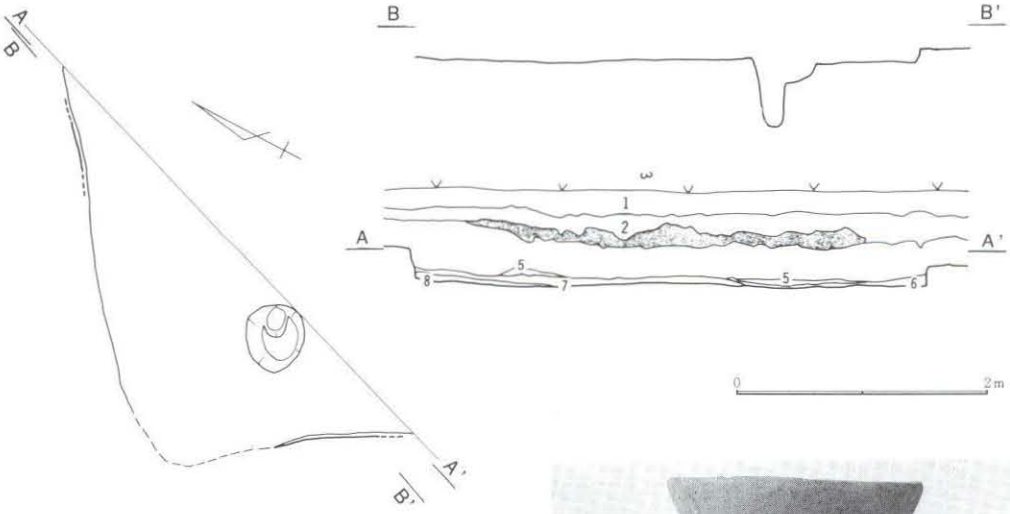
床面は5～10cm程の貼り床が施されているが、やや軟弱である。残存壁高は最大で5cmである。カマドは東壁中央に位置する。遺存状態は悪く、105cm×70cmの掘り方と床面上に焼土の散在が認められた程度である。掘り方で主柱穴が1本確認されたほか、貯蔵穴が南東コーナーで確認された。

遺物は少ないが、甑、小型壺がそれぞれ1点出土している。

4号住居跡出土遺物

4号住居跡遺物出土状況

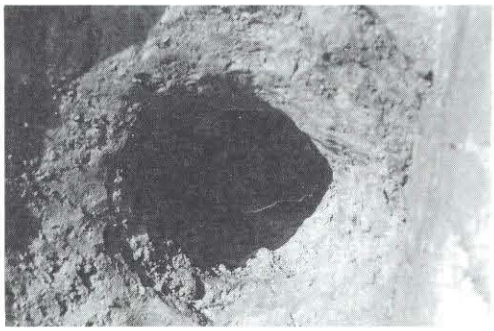
4号住居跡全景



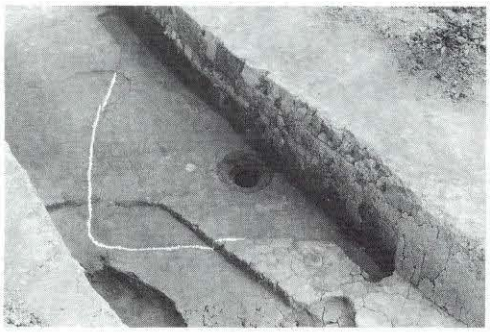
（5号住居跡）
1 耕作土
2 暗褐色土 B軽石を多く含む
3 FA
4 暗褐色土 ローム粒を含み、ブロック(小)を微量含む
5 黒褐色土 焼土ブロックを少量含む
6 暗褐色土 ロームブロック(小)を微量含む
7 暗褐色土 ロームブロック(小)を含む
8 暗褐色土 ロームブロック(小)をやや多く含む

第11図　5号住居跡実測図

5号住居跡出土遺物



5号住居跡柱材出土状況



5号住居跡全景

5号住居跡

３９０－６５０グリッドに位置する。調査トレンチの東側に接しており、全体の１／４程度の調査である。南西コーナーが４号住居跡と重複しており、本住居跡が古い。規模、平面形とも不明である。

住居の掘り込みはローム層まで達しておらず、黒色土層中に床を構築している。壁は遺構確認面が低かったためほとんど残存しておらず最大で９㎝である。柱穴は主柱穴が１本確認された。

遺物は甕のほか、柱穴内から柱材の一部が出土している。

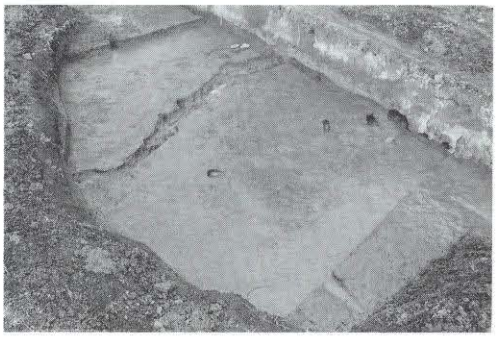
6号住居跡

３２０－６１０グリッドに位置する。調査区の北側および南側に接しており、全体の２／３程度の調査である。規模は東西で7.50ｍを測る。

住居の掘り込みはローム層まで達しておらず、黒色土層中に床を構築している。床面は、平担であるが軟弱である。壁高は西壁で24㎝、東壁は削平によりほとんど残っていない。住居内の２ケ所で焼土の広がりが認められた。掘り方でピットが５本確認されたが主柱穴に相当すると考えられるのは１本のみである。

遺物は高坏のほか、滑石製模造品が１点出土している。

6号住居跡出土遺物



6号住居跡全景

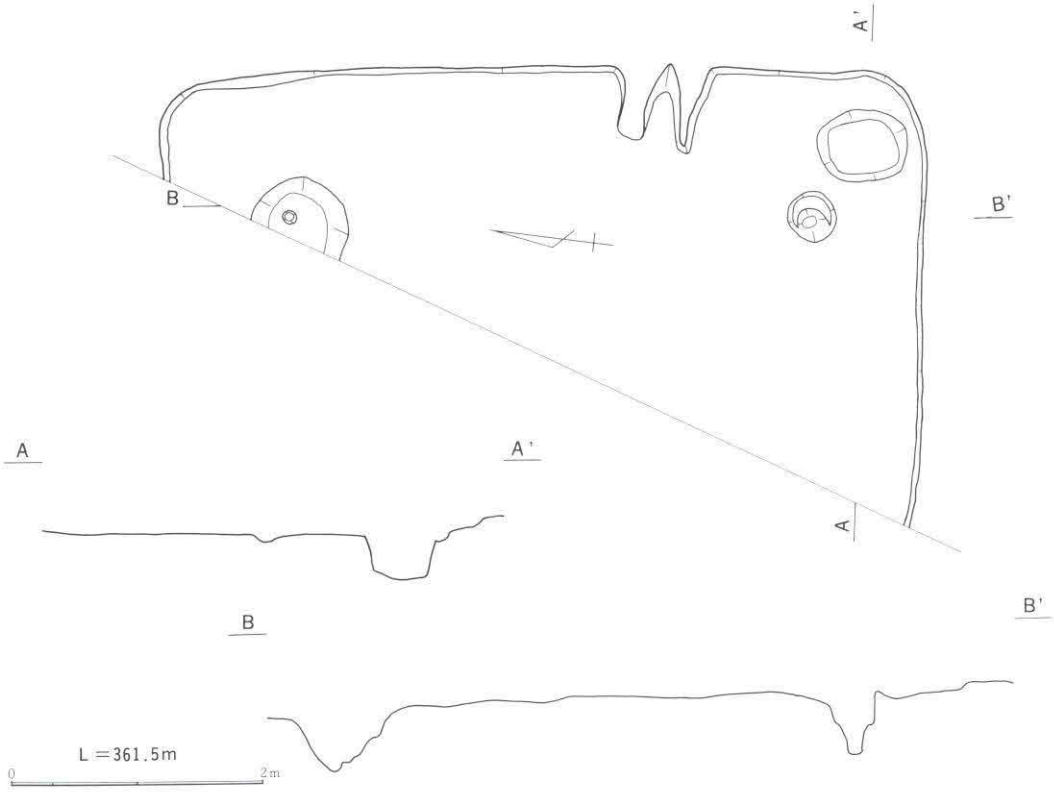
第12図　6号住居跡実測図

7号住居跡

285－635グリッドに位置する。調査トレンチの西側に接しており、全体の1／3の調査である。規模は南北で6.08mを測る。

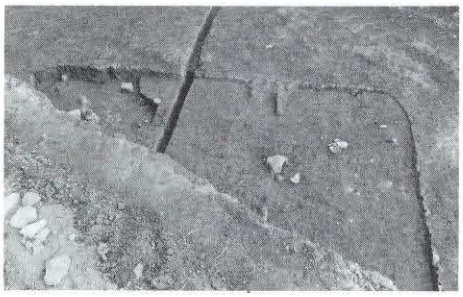
ローム上層まで掘り込んで床としているがやや凹凸がみられる。壁は削平によりほとんど残っておらず、最大で8cmである。カマドは東壁中央に位置する。燃焼部はわずかにくぼみが見られ煙道部は緩やかに立ち上がる。主柱穴が2本確認され、貯蔵穴は南東コーナーで確認された。

遺物は少ないが、臼玉が1点出土している。



第13図　7号住居跡実測図

7号住居跡出土遺物



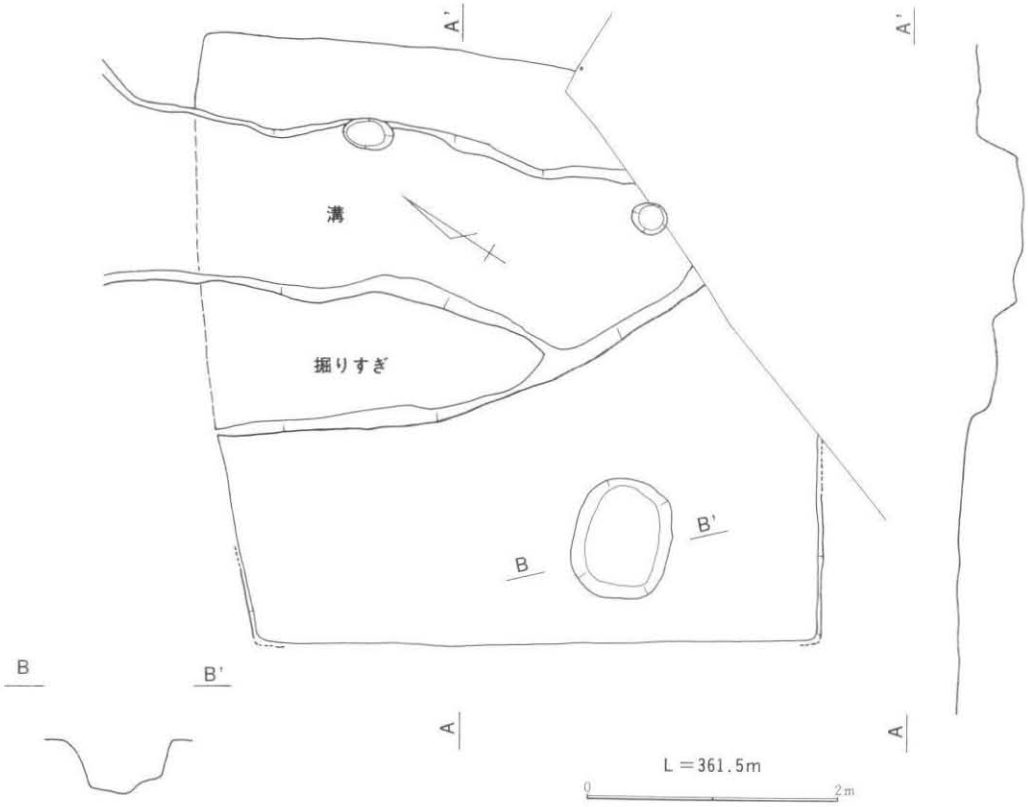
7号住居跡遺物出土状況

8号住居跡

２９０－６２５グリッドに位置する。調査トレンチの東側に接しており、北東コーナー部分は未調査である。規模は4.74ｍ×4.63ｍ、平面形はほぼ方形を呈している。

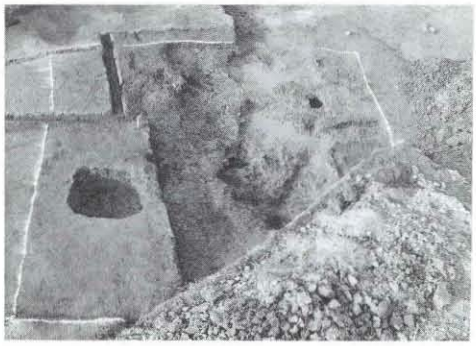
ローム上層まで掘り込んで床としている。南壁、西壁を調査時に掘りすぎてしまったため、壁高はかろうじて残存する東壁で7㎝である。柱穴が２本、貯蔵穴と考えられるピットが１本確認されている。

遺物は台付甕、高坏などが出土している。



第14図　8号住居跡実測図

8号住居跡出土遺物



8号住居跡全景

古墳時代水田址

今回の調査でＨｒ－ＦＡ層下の水田址が確認された。水田は小区画水田および大区画水田が総数で261画検出されている。現時点では資料整理などが不充分であることから、ここでは遺構の概要をごく簡潔に述べるに止めたい。

（1）小区画水田（第16図～第21図）

A－1トレンチ北側およびA－5トレンチで検出された。FA層は現地表下40cmに10cm前後の厚さで堆積している。標高は調査区の北端で365.40m、南端で363.20mとやや南に傾斜している。

水田は大畦畔により区画された区画内を、さらに小畦畔で細分しているものと考えられ、形状は一見したところ、2m程の方形ないしはやや南北方向に長い（2.4m程）長方形のものが多い。小畦畔は下幅10cm、高さ5cm前後である。

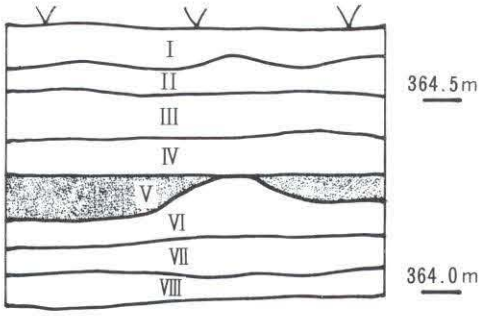
水口はすべての水田に見られるわけではないが、東西方向の畦に設けられたものが多いようである。水田の耕作土は粘性の強い暗青灰色土で、厚さ5～10cm程、水田面は若干凹凸が見られるものの、明確に足跡と判断できるものは確認されていない。また遺物も出土していない。なお、水田耕作にともなうと考えられる水路が1条検出されている（1号溝、第22図）。

（2）大区画水田

A－3、A－4トレンチ（第21図～第22図）およびA－1トレンチ南側、A－2トレンチ（第23図～第25図）で検出された。FA層の厚さは10～20cmである。水田1枚を完全に検出した例がないので規模および形状が不明なものが多いが、A－1トレンチ南側の水田は長方形を呈していると考えられる。

畦畔はA－3、A－4トレンチで下幅50cm前後、高さは10～20cm程。A－2およびA－1トレンチ南側で下幅60cm、高さ10cm程である。

水口はA－3、A－4トレンチでそれぞれ1箇所確認された。耕作土は暗青灰色土で、厚さは10～30cmである。水田面の状況は小区画水田と同様で、足跡等も確認されていない。遺物はA－3トレンチ西側の畦付近から土器小片が出土している。また、Aトレンチ南側で検出された大畦から15～20cm大のレキとともに土器の小片が数多く出土しているほか、畦畔から畦の補強材として使用したものと考えられる加工材が検出されている（第23図～第24図、写真11）。



I	暗褐色土	B軽石を多く含む　現耕作土
II	青黒色土	パミス粒を少量含む
III	灰色土	パミス（小）を少量含む
IV	灰白色土	砂質　パミス（小）を少量含む
V	淡黄色土	FA
VI	晩青灰色土	FA水田耕作土
VII	灰白色土	6層土をブロック状に含む
VIII	灰白色粘質土	

第15図　水田址土層堆積図

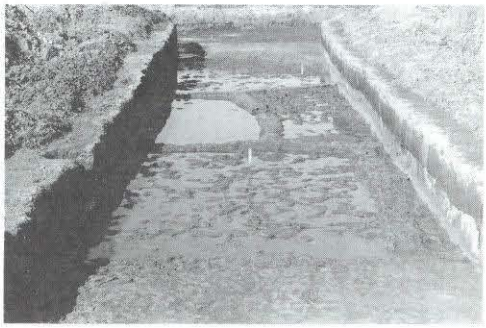
1水田址作業風景

2プラン確認状況

3水田址全景(A－1北)

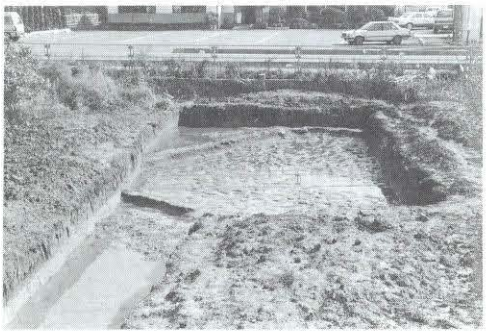
4水田址全景(A－1北)

5水田址全景(A－5)

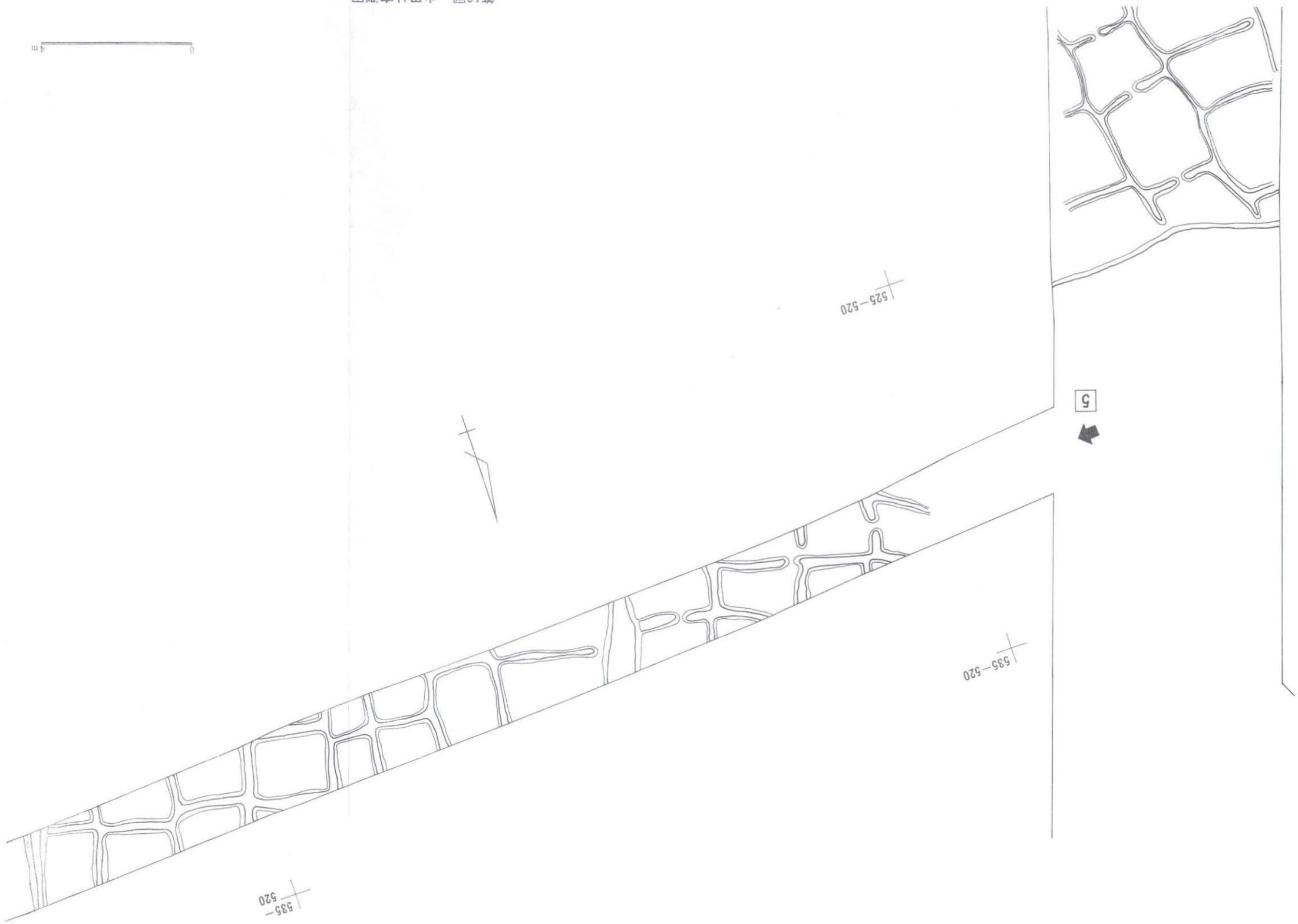


6水田址全景(A－4)

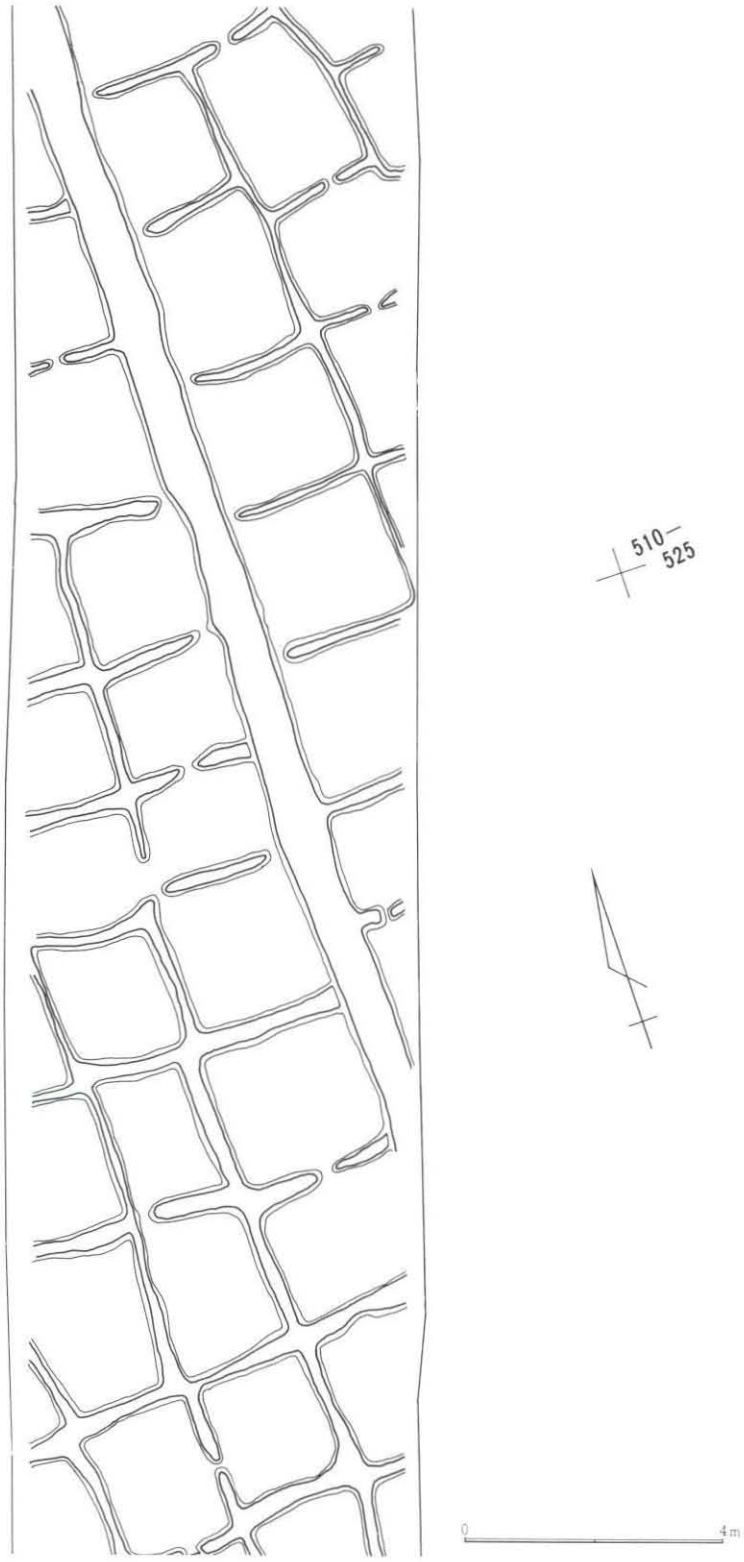
7水田址全景(A－3)



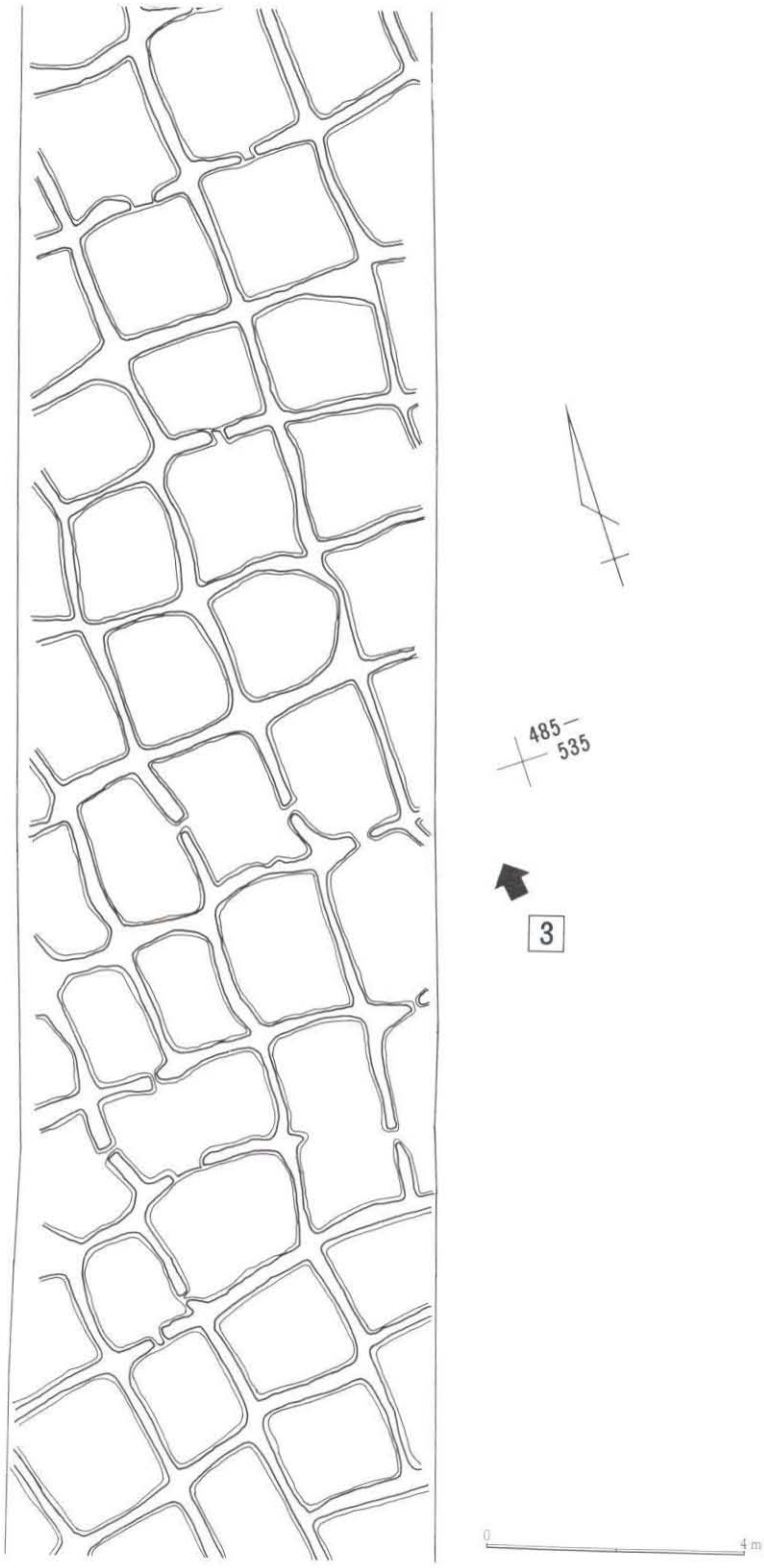
8水田址全景(A－3)



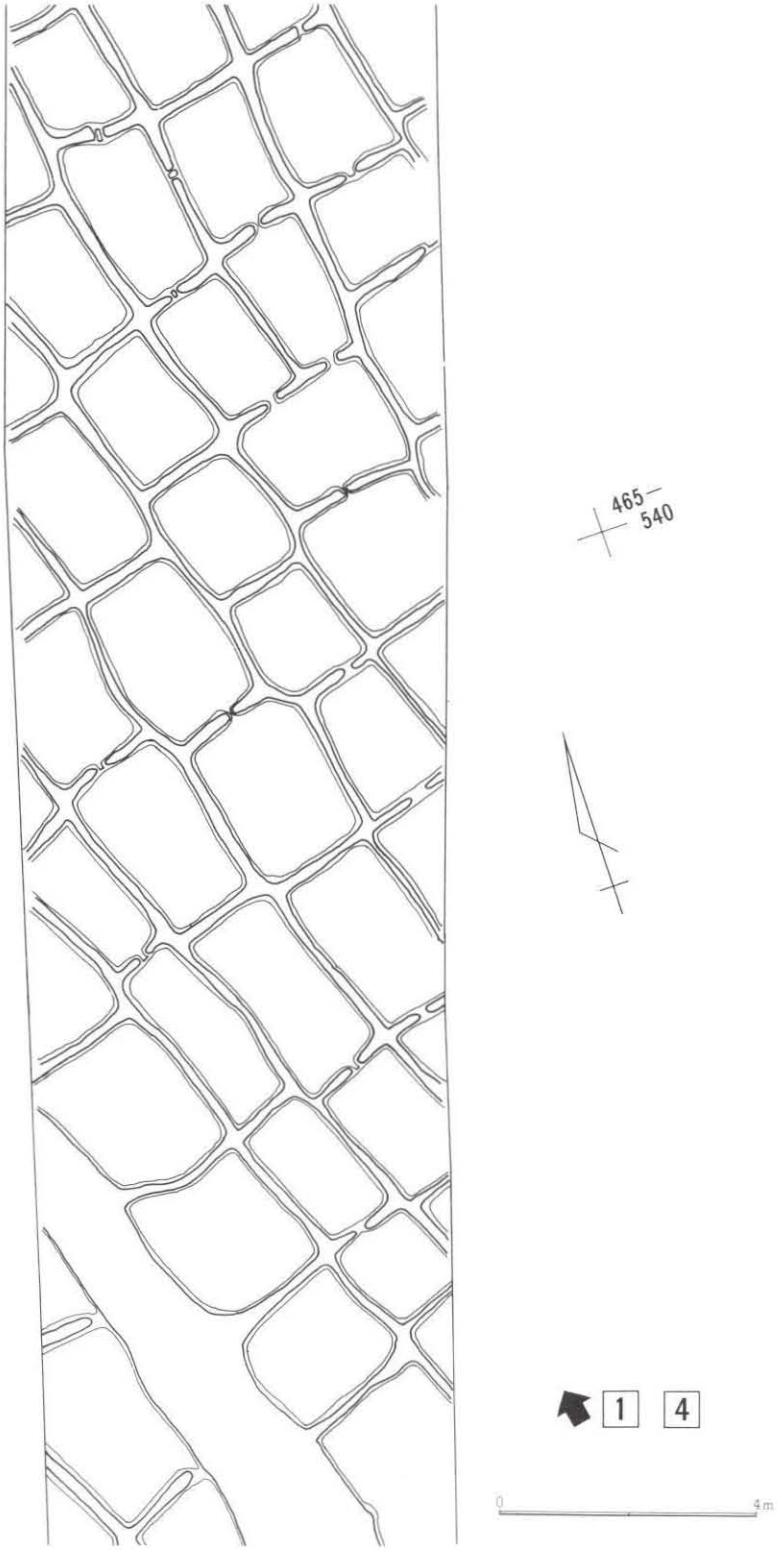
第16図　水田址実測図



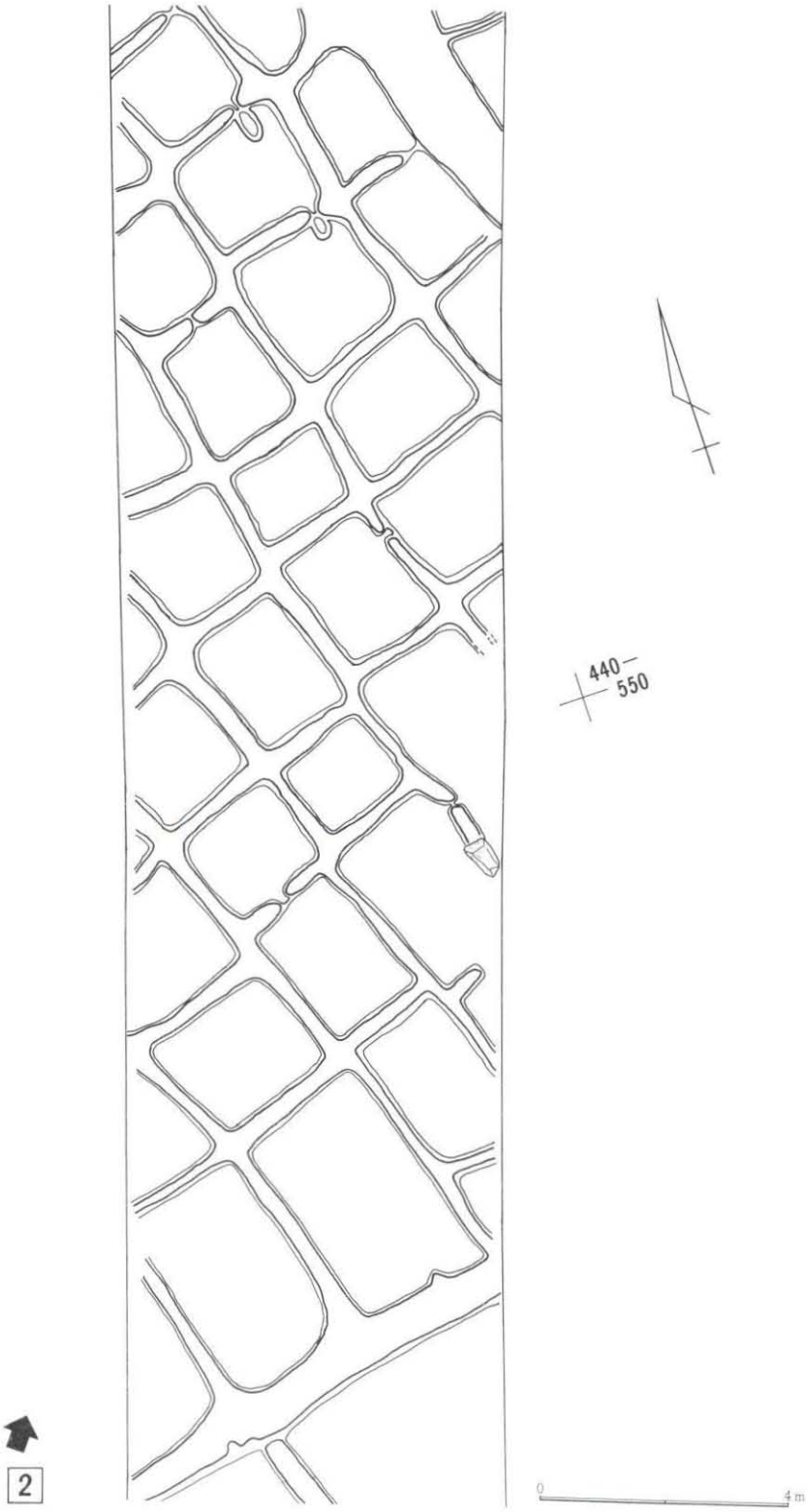
第17図　水田址実測図



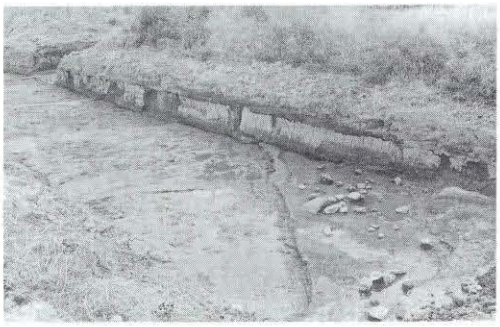
第18図　水田址実測図



第19図　水田址実測図



第20図　水田址実測図



9 水田址全景（A－1南）

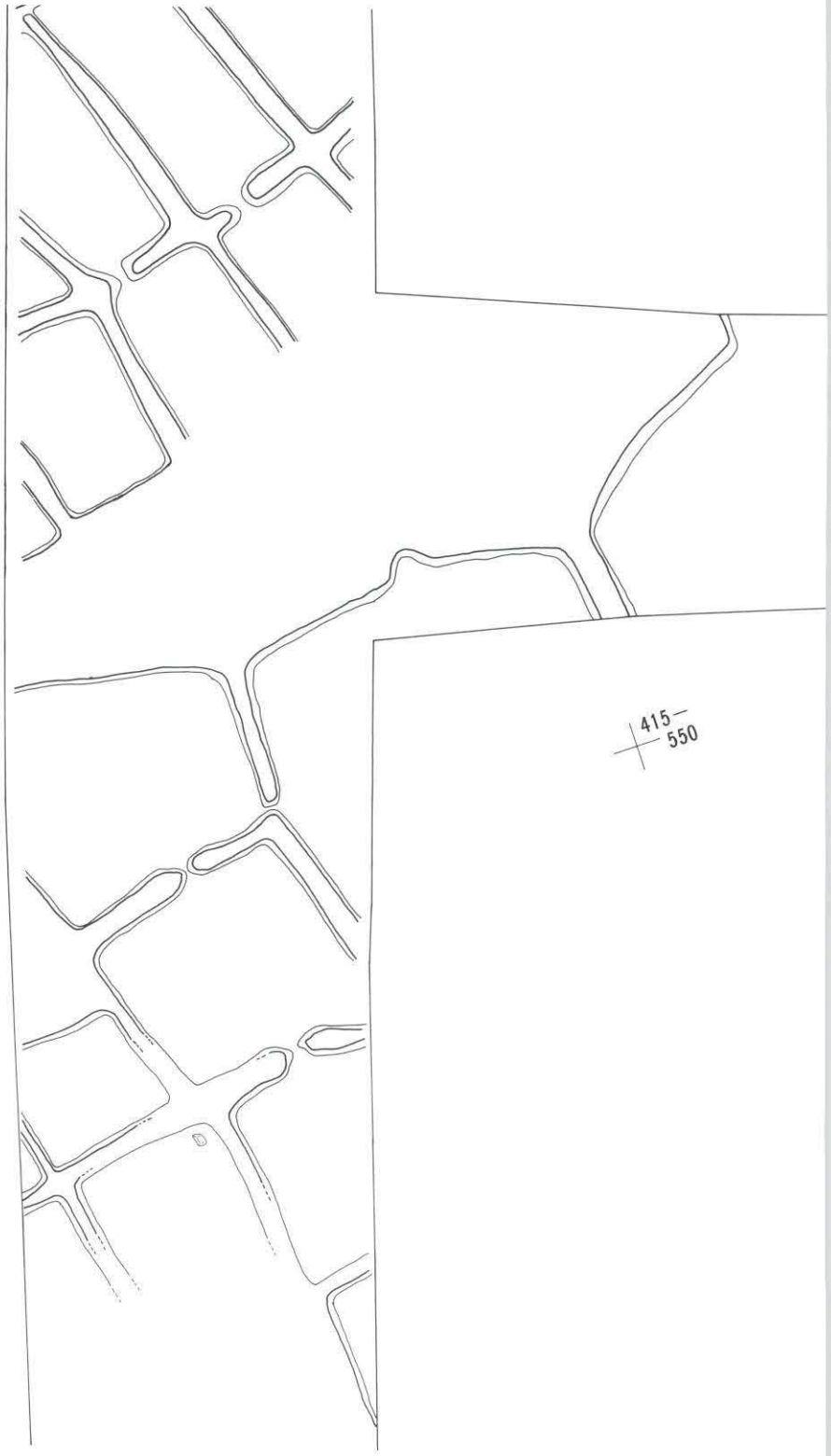
10 水田址全景（A－1南）

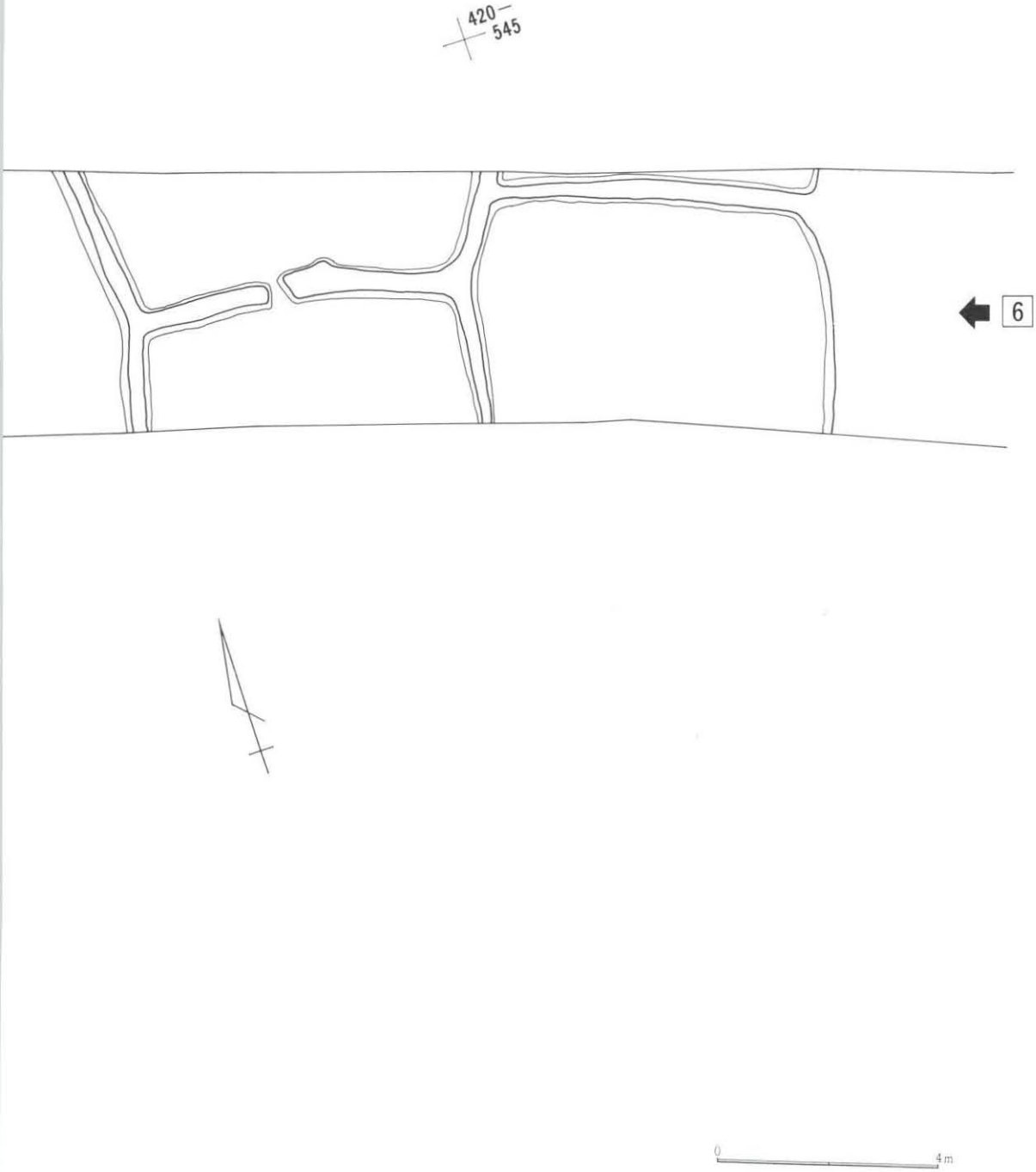
11 加工材出土状況

12 水田址全景（A－1南）

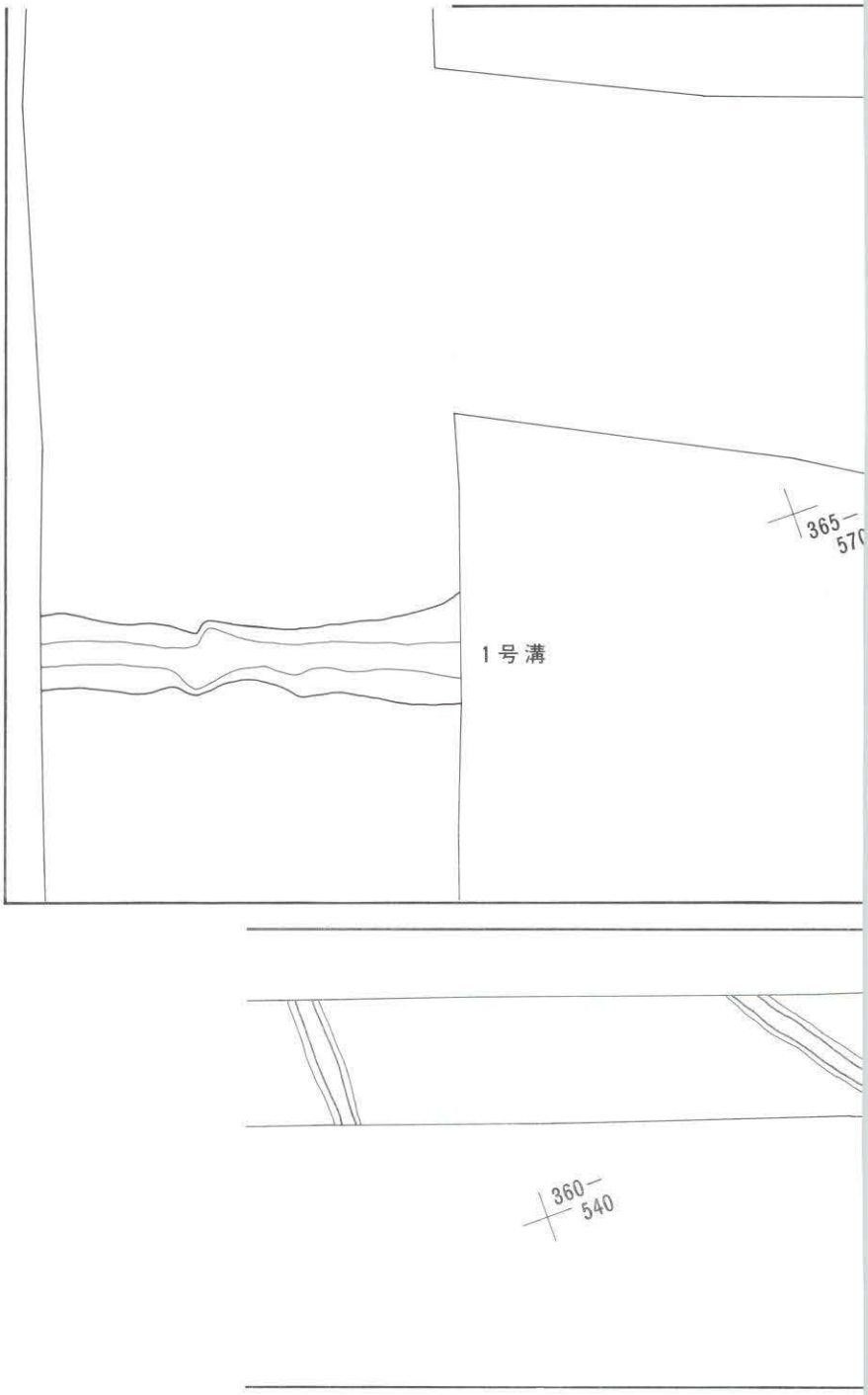
13 水田址全景（A－2）

14 水田址全景（A－2）

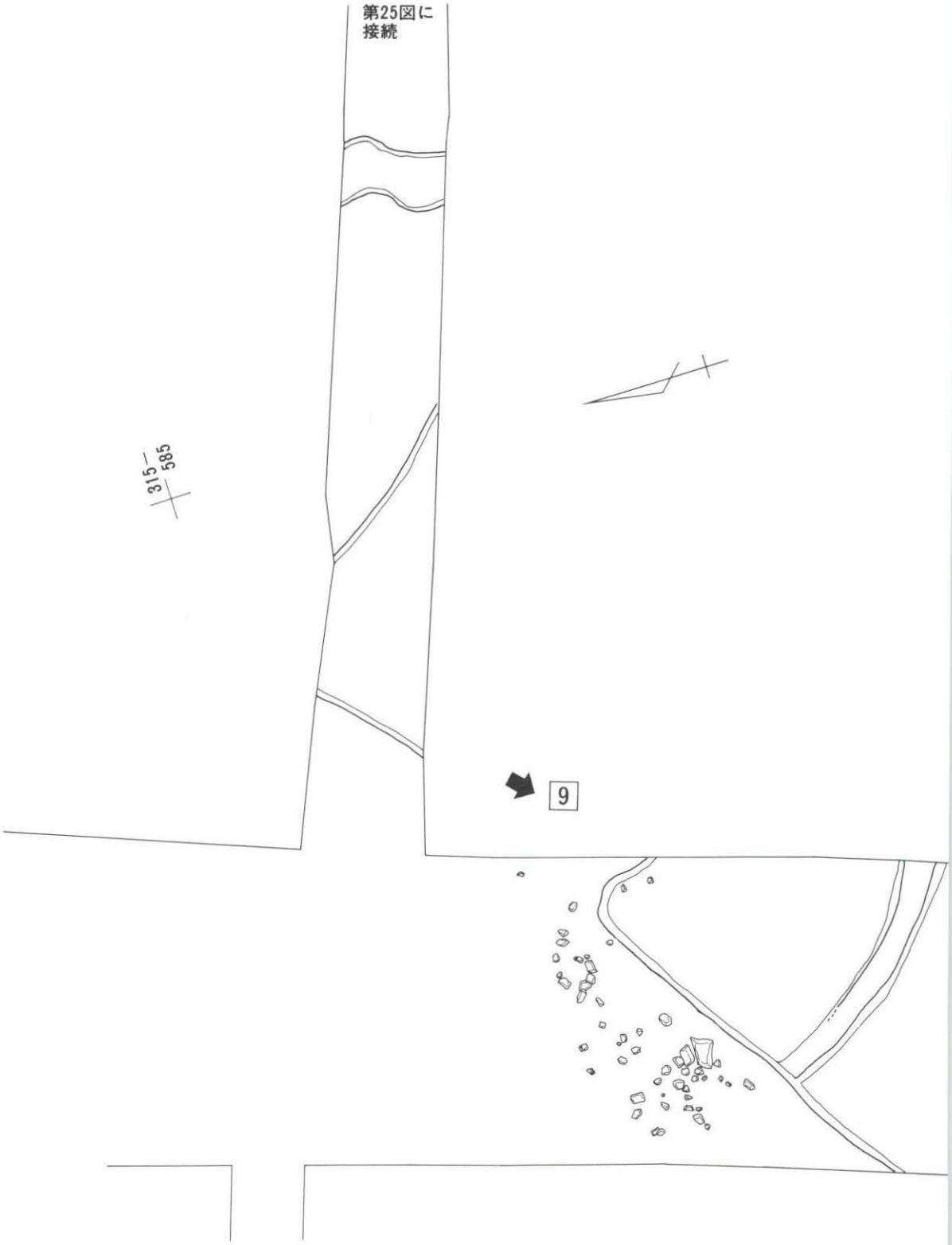

415
550

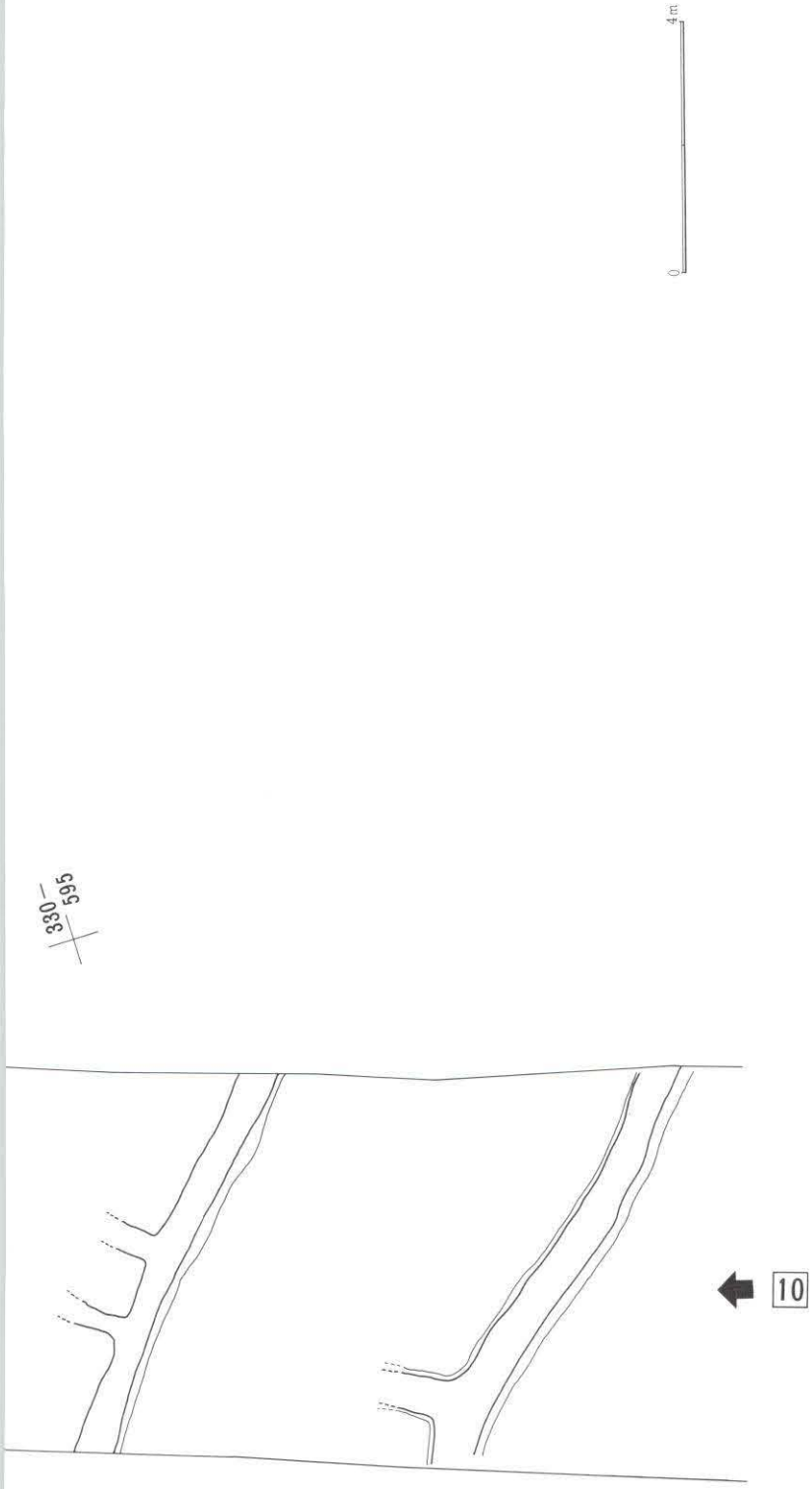


第21図　水田址実測図

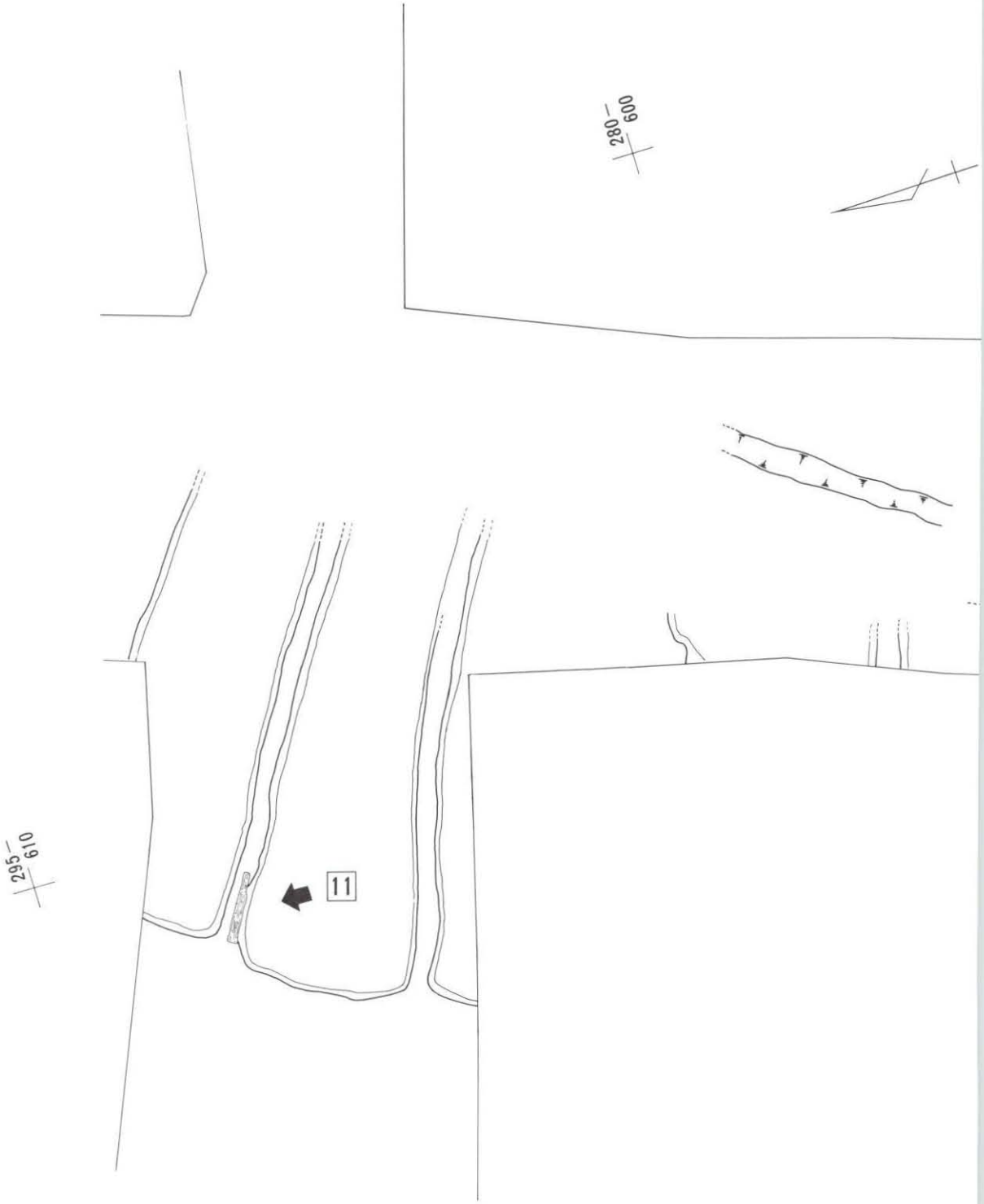

1号溝
365
360
540

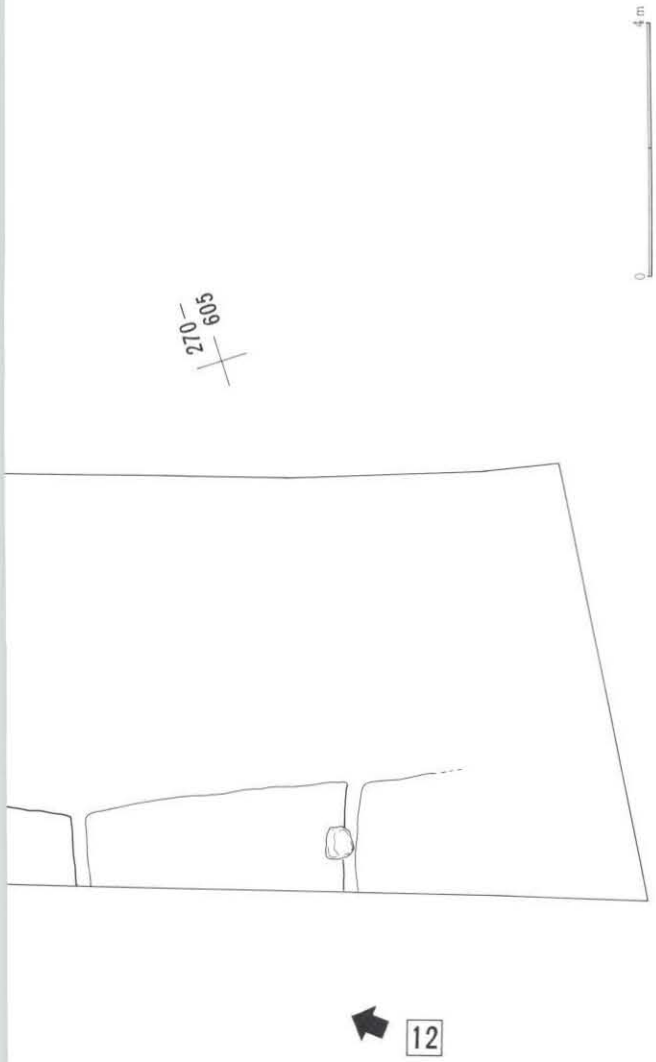
第22図　水田址実測図


第25図に
接続
315
585
9

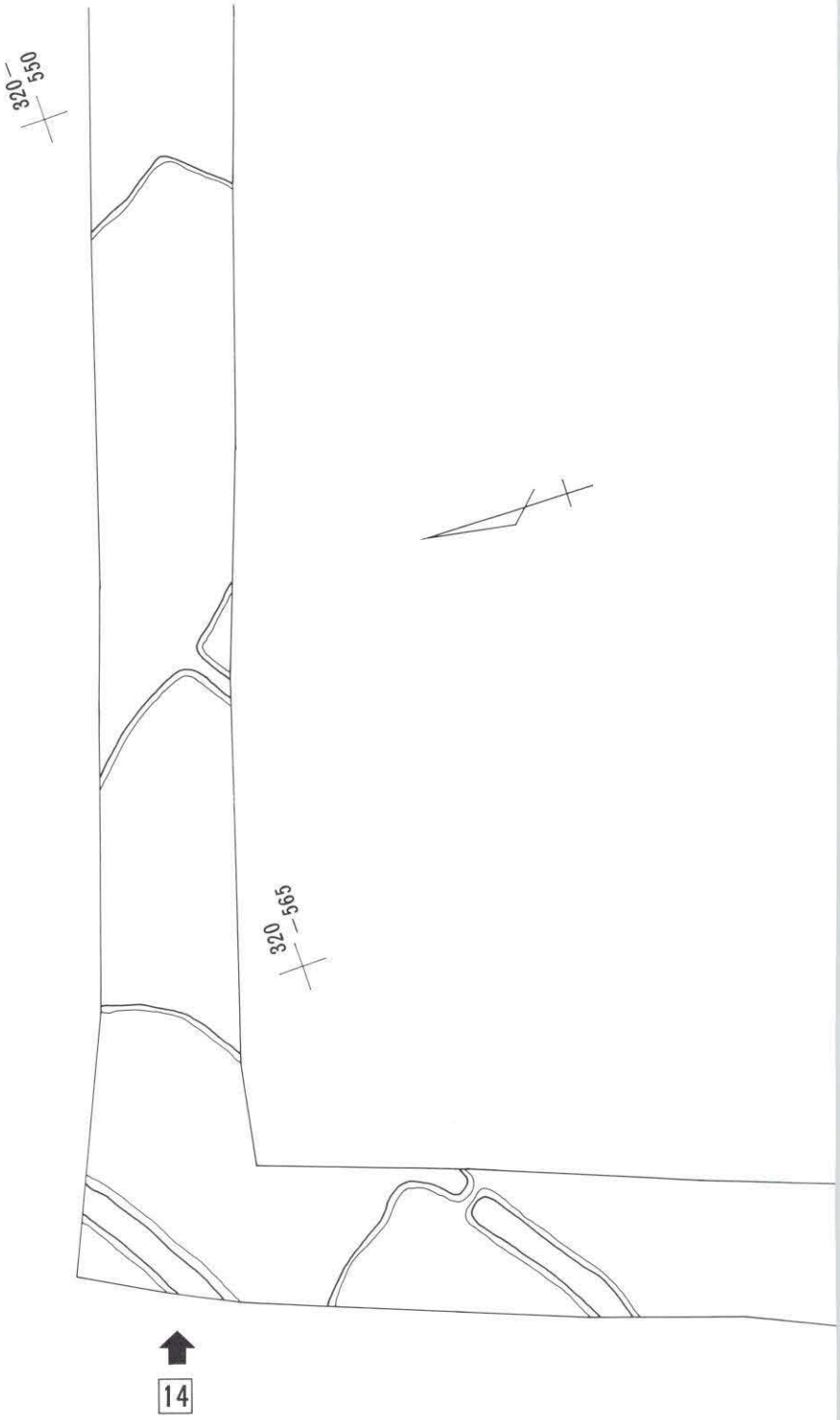


第23図　水田址実測図

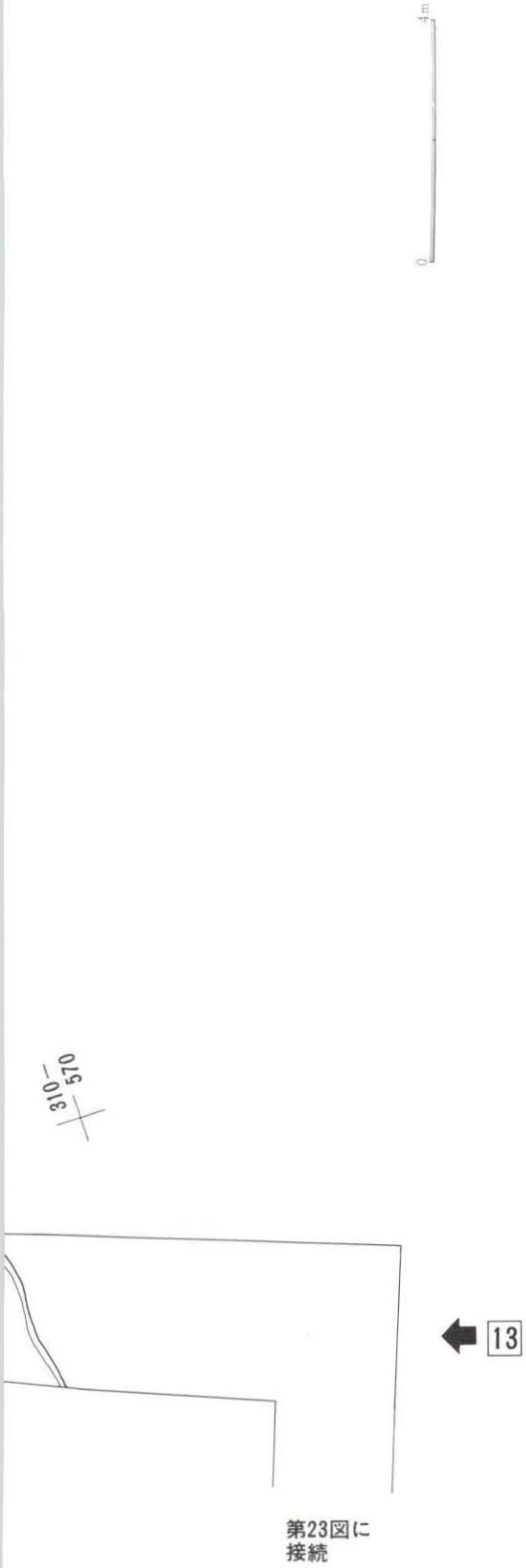

280
600
295
610
11



第24図　水田址実測図



第25図　水田址実測図


0
4m
310-570
13
第23図に
接続

Ⅵ まとめ

今回の調査でＨｒ－ＦＡ下の水田址が検出された。同様の水田址は天神遺跡でも調査されており、中之条町地域においてもこの時代に広範囲に水田耕作が行なわれていたことが明らかになった。道水路部分という限られた区域の調査であったので、遺跡の全体を知るには至らなかったものの、貴重な成果を得ることができた。

七日市遺跡Ａ区では、小区画水田および大区画水田が261面検出されている。このうちの大区画水田についてみると、Ａ－３、Ａ－４トレンチの水田址に比べＡ－１トレンチ南側、Ａ－２トレンチの水田址はやや遺存状態が悪かった。Ａ－３、Ａ－４トレンチの水田が地表下110cmにあるのに対して、Ａ－１トレンチ南側では地表下170cmであり、土圧の関係で遺存状態に差が出たとも考えられるが、プラントオパール分析の結果ではＡ－１トレンチの北側の小区画水田で平均12,500個／ｇであるのに比べ、南側の大区画水田では平均8,900個／ｇと低い数値となっていることもあり、ＦＡの降下直前までＡ－１トレンチ南側、Ａ－２トレンチの水田址で水田耕作が行なわれていたかどうかについては若干疑問が残る。この点については今後の検討課題としたい。